

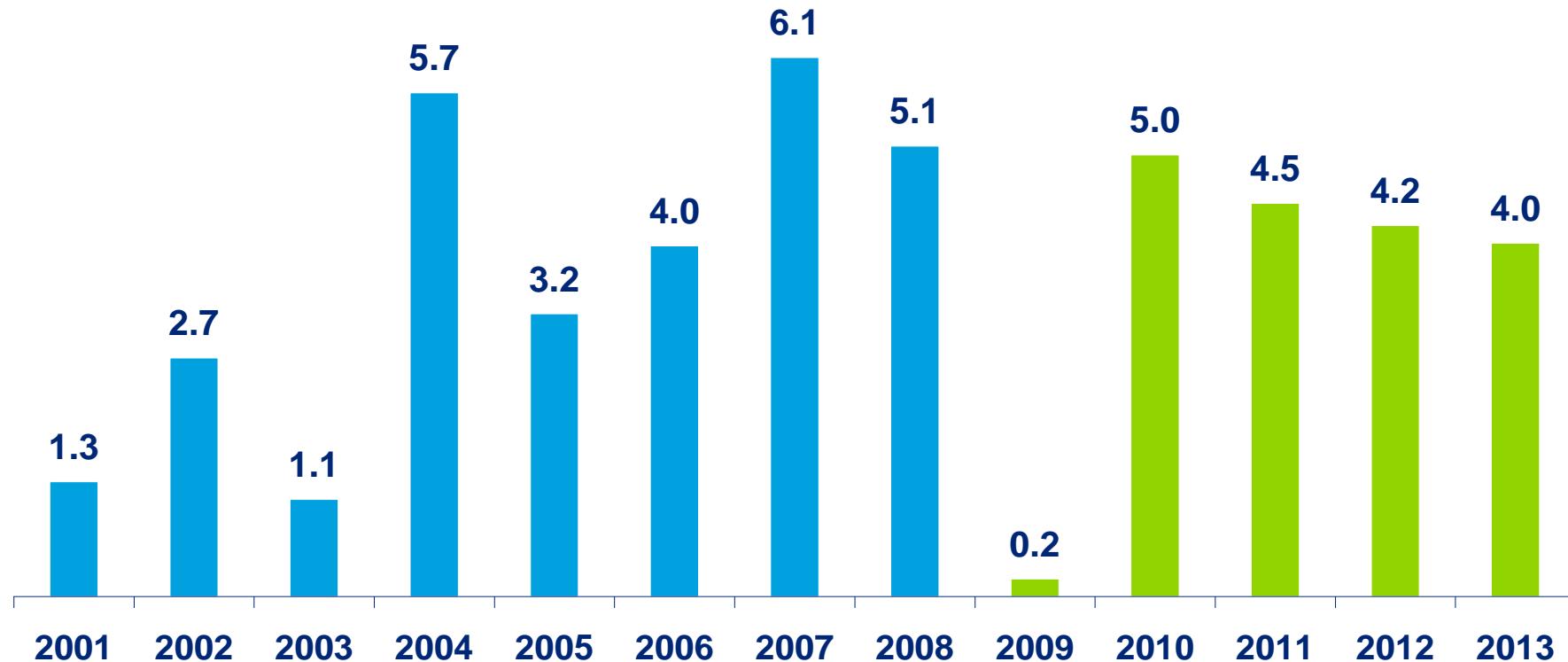
# 「2009年下期の回顧と2010上期の展望」

コンサルタント部会発表資料

# 実質国内総生産成長率

GDP

Variação % anual



出所: ブラジル中央銀行

# 主要国際収支アイテムから見た 貿易/投資の推移(億ドル)

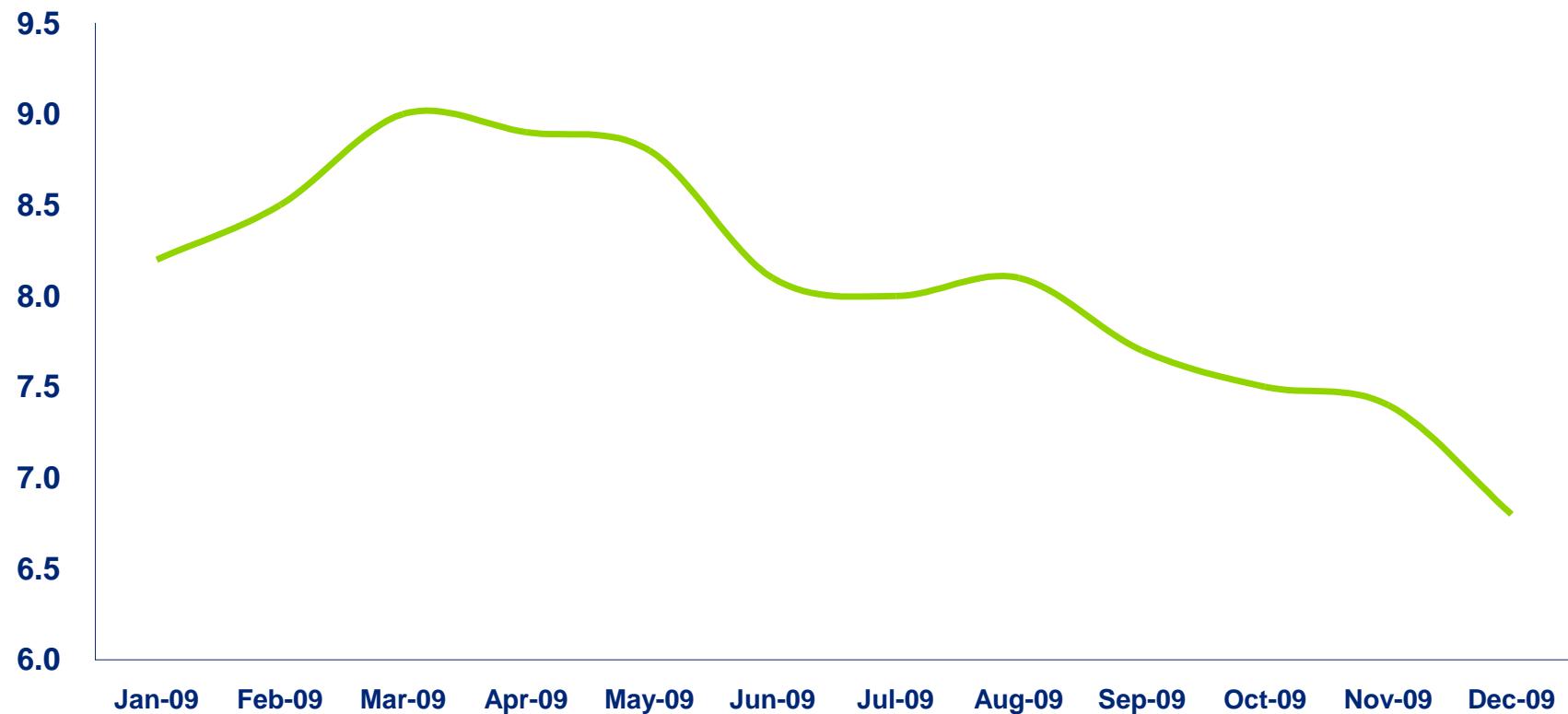
	2009年前期 (1月－6月)	2009年後期 (7月－12月)
<u>経常収支</u> (貿易+サービス+所得 +経営移転収支)	▲ 70	▲169(サービス+所得 収支が大幅に出超)
<u>貿易</u>		
輸出	140	114
輸入	700	829
<u>直接投資</u>		
対外直接投資	145	216
対内直接投資	18	83
<u>証券投資</u>	127	133
<u>外貨準備高</u>	(2009年6月) 2,084	(2009年11月) 2,380

# 工業生産指數

## 基準値 2005年12月=100

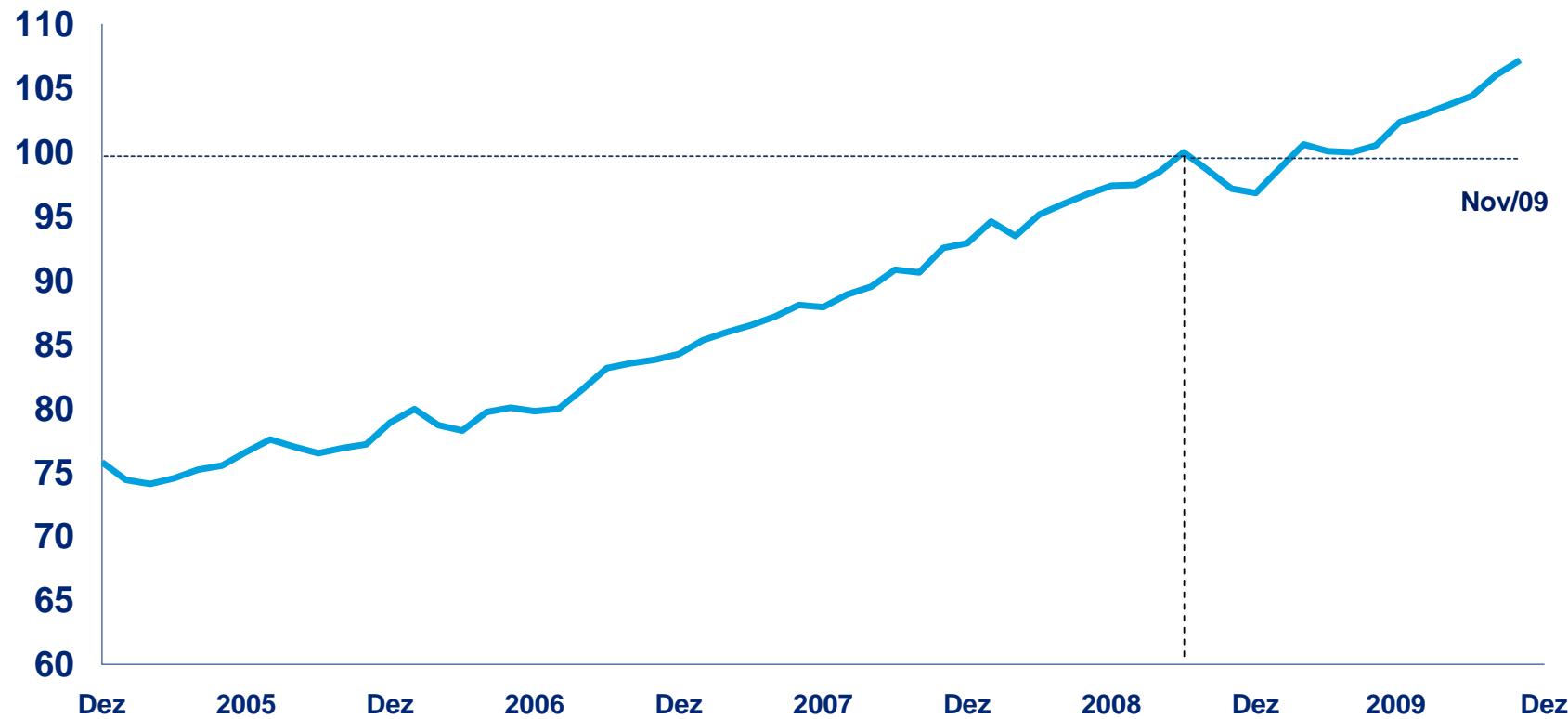


## 失業率の推移(%)



# 小売推移

## 基準 2008年9月 = 100



Fonte: Research - Deloitte (a partir da consolidação de dados do IBGE). Produção e vendas com ajuste sazonal.

## 2009年下期

- 財政政策(IPI 減税)や金融政策(消費者金融拡大、金利減)の効果による内需の拡大
- 資本財、農業機械などの生産指数の落ち込みから回復基調へ
- 内需の拡大を支える中間所得層の増大と雇用の回復

金融危機以前まで回復したとはまだ言えないものの景気はしっかりとしたプラスの方向に転じた

## 2010年上期

1. 景気は引続き好調に推移(回復から成長へ)  
(穏やか? 力強く? )  
(部会大多数意見)
2. 選挙の景気への影響はないと言ってよいのではないか  
(部会大多数意見)

# 不確定要因 / 不安定要因

## 1. 外的要因(グローバル経済の予期せぬ影響)

- 石油と関連製品の国際価格
- 鉱物資源と農産物の国際価格
- 投機資金の流れ
- 中国不動産バブル - 金融引き締め
- 長期的な米国ゼロ金利政策
- ギリシャ国債暴落

などなど

ブラジル

為替、輸入価格上昇

インフレ要因

輸出業者ダメージ

株価

## 2. 国内要因

景気過熱 —→ インフレ